

定期点検における常時監視システムの導入について

2025年3月25日

日本冷凍空調工業会

常時監視システムに対する考え

- 簡易点検に代替可能な常時監視システムの普及台数は、約3万台。
- 常時監視システムの導入効果を分析したところ、①冷媒漏えい量の削減（約25%削減）、②冷媒漏えいの発見向上（約80%）が認められたことから、定期点検においても代替可能とすることが望ましい。

冷媒漏えい量の削減

約25%

比較対象	漏えい量
常時監視システムによる発報	287 (g)
ユーザーによるサービスコール	379 (g)

(日冷工 調べ)

※調査対象：39件（据え付け年数5年以内）
※比較対象：常時監視システムによる発報とユーザーによるサービスコール
※漏えい量：20日以内にメンテナンスを行った時の1kW当たりの冷媒漏えい量の平均値
※調査結果：**約25%削減（約200万CO₂の削減可能と試算）**
※考察：常時監視システムの優位性が認められる

冷媒漏えいの発見向上

約80%

比較対象	発見台数
常時監視システムによる発報	31(件)
人による現地点検	0(件)
ユーザーによるサービスコール	8(件)
合計	39(件)

(日冷工 調べ)

※調査対象：39件（据え付け年数5年以内）
※比較対象：常時監視システムによる発報とユーザーによるサービスコール
※発見台数：20日以内にメンテナンス対応を行った台数
※調査結果：**約80%発見**
※考察：常時監視システムの優位性が認められる